乾燥減量　15.0%以下（1g，105℃，3時間）
力価試験
寒天平板　ラサロシドナトリウム製造用原体の規定を準用する。
試験菌　ラサロシドナトリウム製造用原体の規定を準用する。
常用標準希釈液の調製　ラサロシドナトリウム製造用原体の規定を準用する。
試料溶液の調製　本品の表示力価に従い、試験を行うために必要な量を有効数字3桁まで量り、その数値を記録し、1mL当たりの濃度が約1mg（力価）となるよう、メタノール（9→10）一定容量を全量ピペットを用いて加え、激しく振り混ぜ、必要ならば、ろ過又は遠心分離し、そのろ液又は上澄液を試料原液とする。試験を行うために必要な量の試料原液を全量ピペットを用いて量り、以下ラサロシドナトリウム製造用原体の規定を準用する。
㈠　製造の方法の基準
ラサロシドナトリウム製造用原体に、賦形物質を混和して製造すること。
㈢　保存の方法の基準
ラサロシドナトリウム製造用原体の保存の方法の基準を準用する。
㈣　表示の基準
本品の直接の容器又は直接の被包に、次の文字を記載すること。
有効期間　製造の翌月から2年
使用上の注意　この飼料添加物は、鶏又は牛に過剰投与した場合発育障害がおこるので、定められた添加量を厳守するとともに、均一に配合するよう注意すること。

(121)　硫酸コリスチン
硫酸コリスチン（その1）
ア　製造用原体（その1）
㈠　成分規格
力価　本品は、コリスチンの硫酸塩であり、力価試験を行うとき、1mg中に500μg（力価）以上を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、淡灰白色～褐色の粉末である。
②　本品は、水に溶けやすく、アセトン及びエーテルにほとんど溶けない。
確認試験
①　本品の水溶液（1→2,500）5mLにニンヒドリン試液0.5mL及びピリジン2滴を加え、1分間煮沸した後、冷却するとき、溶液は、青色を呈する。
②　本品の水溶液（1→20）2mLに塩化バリウム試液1滴を加えるとき、溶液は、白濁する。
純度試験
①　pH　本品の水溶液（1→200）のpHは、2.0～5.5でなければならない。
②　重金属　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、重金属試験法第2法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（20μg/g以下）。
③　ヒ素　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、ヒ素試験法第3法により試料溶液を調製し、装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（2μg/g以下）。
乾燥減量　7.0%以下（1g，減圧，60℃，3時間）
強熱残分　5.0%以下（1g）
力価試験
寒天平板　基層用培地は、8号培地を用い、種層用培地は、9号培地を用いる。
試験菌　*Bordetella bronchiseptica* ATCC 4617を用いる。
常用標準希釈液の調製　試験を行うために必要な量の常用標準品を有効数字3桁まで量り、その数値を記録し、5号緩衝液を加えて溶かし、1mL当たりの濃度が約1mg（力価）となるよう、更に5号緩衝液を加え、正確に一定容量とし、希釈原液とする。試験を行うために必要な量の希釈原液を全量ピペットを用いて量り、1mL当たりの濃度が40μg（力価）及び10μg（力価）となるよう、5号緩衝液を加え、正確に希釈し、高濃度常用標準希釈液及び低濃度常用標準希釈液を調製する。
試料溶液の調製　試験を行うために必要な量の本品を有効数字3桁まで量り、その数値を記録し、5号緩衝液を加えて溶かし、1mL当たりの濃度（推定値）が約1mg（力価）となるよう、更に5号緩衝液を加え、正確に一定容量とし、試料原液とする。試験を行うために必要な量の試料原液を全量ピペットを用いて量り、1mL当たりの濃度（推定値）が40μg（力価）及び10μg（力価）となるよう、5号緩衝液を加え、正確に希釈し、高濃度試料溶液及び低濃度試料溶液を調製する。
㈡　製造の方法の基準
*Bacillus polymyxa*のコリスチン生産菌株を好気的に培養し、培養を終了した後、培養液のpHを調整し、固形分をろ過し、ろ液中のコリスチンをイオン交換樹脂に吸着及び溶離し、硫酸塩としたものを濃縮及び乾燥して製造すること。
㈢　保存の方法の基準
遮光した気密容器に保存すること。
イ　製造用原体（その2）
㈠　成分規格
力価　本品は、コリスチンの硫酸塩の溶液であり、力価試験を行うとき、1mg中に150μg（力価）以上を含む。
物理的・化学的性質　本品は、淡褐色～暗褐色の液体で、特異な臭いを有する。
確認試験
①　本品の水溶液（1→500）5mLにニンヒドリン試液0.5mL及びピリジン2滴を加え、1分間煮沸した後、冷却するとき、溶液は、青色を呈する。
②　本品の水溶液（1→5）2mLに塩化バリウム試液1滴を加えるとき、溶液は、白濁する。
純度試験
①　pH　本品のpHは、2.0～5.5でなければならない。
②　比重　本品の比重d_{20}^{20}は、比重測定法第1法により試験を行うとき、1.05～1.20でなければならない。
③　溶状　本品0.10g（0.095～0.104g）を量り、水10mLを加え、混和するとき、その溶液は、微黄色～淡褐色で、澄明又はほとんど澄明でなければならない。
④　重金属　本品4.0g（3.95～4.04g）を量り、重金属試験法第2法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（5μg/g以下）。
⑤　ヒ素　本品4.0g（3.95～4.04g）を量り、ヒ素試験法第3法により試料溶液を調製し、装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（0.5μg/g以下）。
蒸発残分　本品約1gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、水浴上で蒸発乾固し、残留物を105℃で5時間乾燥するとき、その量は、40%以下でなければならない。
強熱残分　1.25%以下（1g）